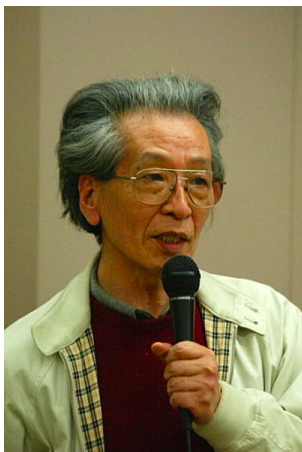


脱原発社会はNO！リニア

講演



◇広瀬隆さん

環境ジャーナリスト

「リニアと原発の危険な話」

著書「危険な話」「東京に原発を」
「福島原発メルトダウン」ほか多数。



◇川村晃生さん

慶應義塾大学名誉教授 環境人文学

「人間にとって原発とは何か—
文学の視点から」

リニア・市民ネット代表

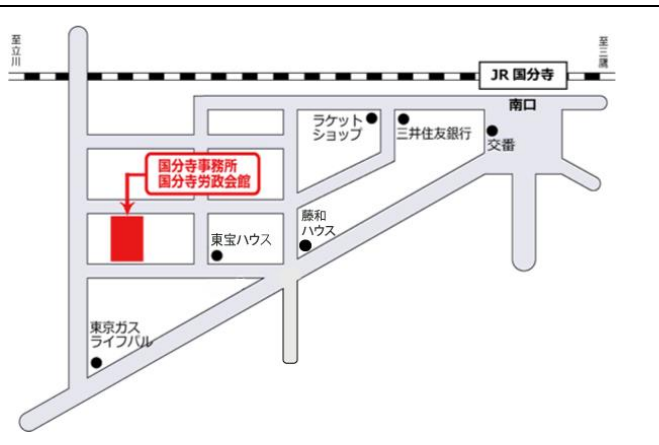
著書：「環境学事始め」「壊れゆく景観」（共著）。

日時：6月30日（日）

午後1：30～4：30

場所：国分寺労政会館

第4会議室



東京から名古屋までのリニア中央新幹線計画の着工は目前に迫っています。沿線各地で反対の声があがり、「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」も結成されました。町田、稲城では大深度地下を通る計画です。

講演のあと、各地の脱原発、リニア問題のグループよりアピールあり。

資料代 500円

主催 リニア・市民ネット／ガウスネット／

連絡先 Tel 042-565-7478



◆計画予定:2014年度 工事計画認可・着工

2027年 東京—名古屋間(286km)開業

2045年 東京—大阪間(438km)開業

◆最高設計速度:505km/時

◆総事業費:9兆 300 億円

◆到達時間:東京—名古屋間 40分 東京—大阪間 67分

◆停車駅:メイン駅は品川、名古屋、大阪、 中間駅は各県1ヵ所

◆全工程の8割がトンネル、都市部は地下40mの大深度トンネル、5~10km毎に直径3kmの巨大換気立坑

採算とれない、経済効果も無い、駅整備で地元負担

少子高齢化で人口減、新幹線利用客も頭打ち、リニア利用客だけが增える見通しは甘い。建設促進派は中間駅に1時間で5本停まると地元で経済効果大と言うが、停まっても1本。中間駅関連施設、道路など関連整備で地元は巨額の負担を強いられる。

電磁波を出す、電気をムダ使い、安全対策も二の次

リニア実験線車内の電磁波レベルは公表されておらず、磁気シールドで車体を覆わなければならないほどの電磁波が発生し、乗客・沿線住民に健康被害の恐れ。新幹線の3~4倍で原発1基分に相当する膨大な電力を消費。「万全の安全対策とる」と説明するが、具体的な事故対策は後回し。

南アルプスの自然を破壊、都市でもトンネル工事の影響大

山梨から長野へ南アルプスに大トンネル。日本最大の自然に対する日本最大の破壊行為。悪法「大深度法」で、都市部の住民は、家の真下を通っても権利なし。さらに5~10kmおきにつくられる巨大な「立坑」工事で大迷惑。全線の8割がトンネルなので膨大な残土が出る。残土の処理はどうかさえ明らかにされていない。

活断層が動いたらトンネルは大丈夫?

東京・名古屋間の8割がトンネル。その間、多くの活断層が存在。「地下は地震に強い」は神話。揺れには多少強いのかも。しかして地層がずれる断層地震の経験は未知。危険なリニアをつくるより、東南海地震の被害が心配な東海道新幹線の総点検と大規模改修が先ではないのか。